

卒業生データ蓄積 進路指導「e」化

日本
女子大

評価システム開発

日本女子大学の小川賀代講師、小館香椎子教授らの研究チームは、卒業生のデータ蓄積による「eポートフォリオ」を活用した人材育成システムを開発した。社会で活躍する卒業生が大学時代に修めた成果を集めてロールモデルを作成し、これを基に在籍学生が卒業生と自分の成績を照らし合わせて達成度を測ることができる。11月にも同大理学部で試験運用を始め、早ければ07年には在学生のデータを企業にも公開する。教育支援に加え、就職のミスマッチを食い止める試みとしても注目されそうだ。

理系女性育成策の一環

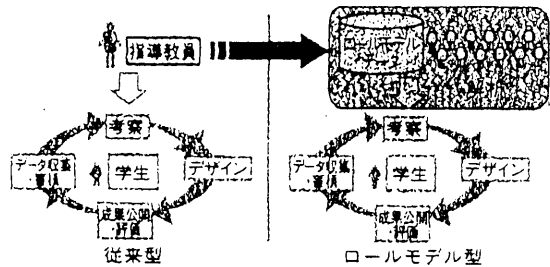
レポートや試験結果、文献など学習の成果を蓄積・評価する「eポートフォリオ」は個人の業績やその履歴を一元化して一覽できる技術。今回、これを教育現場に応用するために多数のロールモデルを作り、従来の指導教員に頼った評価方式から客観的で体系的な評価システムに移行した。

データは講義成績やレポートなどの成果から専門知識や分析力、語学力など6項目を総合的に評価して職業に就く卒業生など対象を選択して解析できるほか、自分の過去の能力と比べて成長を数値化することもできる。

この研究は日本女子大とエミットジャパン(名古屋市長東区)、名古屋大学基盤情報センターが共同で行った。日本女子大は06年度科学技術振興調整費「女性研究者育成モデル事業支援」の採択校。まずは理学部を対象に理系女性を育成する推進プログラムの一つとしてシステムを導入する。

今後は企業の人事担当者などにヒアリングして集めた声を反映し、社会が大学に求める人材の育成に力を注ぐ。

教育におけるeポートフォリオ活用



レポートや試験結果、文献など学習の成果を蓄積・評価する「eポートフォリオ」は個人の業績やその履歴を一元化して一覽できる技術。今回、これを教育現場に応用するために多数のロールモデルを作り、従来の指導教員に頼った評価方式から客観的で体系的な評価システムに移行した。

データは講義成績やレポートなどの成果から専門知識や分析力、語学力など6項目を総合的に評